

奥会津だより



今も暮らしに生きる道具を6回シリーズで紹介します。-No.2 しょいかご-



しょいかご(背負い籠)

竹を編んだ広口の籠は昔、肥やしを入れて運ぶ道具だった。背負ったまま前屈みになると、籠から肥やし撒かれる。荒い編み目の間からこぼれた肥やしは背中を濡らした。竹細工の行商から買った籠がどこの家にもあった。肥やしを背負う風景は消えたが、草や落ち葉を入れて運ぶ姿は今も残っている。

いわしぐもならんでならんでつながって

渡部 大地くん(横回小)

第 **37** 号
—2006年初秋—

田畑の風景

さりげなく身の回りにある自然の宝物を紹介していきます。



奥会津の田や畑は、山と川に挟まれて不定形に広がっているところが多い。自給自足が基本の耕作地は、傍らに小川が流れていたり、あぜ道に佇む石仏や石祠が、人々の往来を見守っていたりする。人々の暮らしがはつきりと見える豊かな世界だ。畑にはカカシの代わりに、かつては子供の遊び道具だったらしい人形が置かれている。



- ①田は初秋の陽を浴びてもまだ緑濃い田の周囲には、早くもオミナエシが咲いている。裸で待つ稲架は、地域によってはハゼ、サデ、ネリなどと呼ばれる。(柳津町)
- ②刈り草を燃やしている丹念に手入れされた畑は、幾何学模様のような美しさを見せる。手前に生い茂っている大きな葉の下では、カボチャがゴロゴロとこがっているはずだ。(柳津町)
- ③住居近くの畑では、かつて子供の遊び相手だったろう人形が今は畑を見守る。大きくなった子供の姿も見えるようだ。(柳津町)
- ④あぜ道に佇む野仏は不動明王。草が生い茂る季節には、その姿も草に隠れてしまう。(柳津町)



写真/山浦芳明

奥会津つれづれ

今の奥会津を季語で表すと、「向日葵」「草いきれ」「雲の峰」を眺めた夏から、「爽やか」な「秋風」が吹く夕暮れ時に、「蝸」の声に耳を澄ませる季節に変わりつつある。

今年三月に協議会で発行した「奥会津歳時記」には、奥会津の六六三の季語と例句が収録され、季節ごとに見られる虫や花の名、年中行事について紹介されている。十七文字それぞれに、詠まれた時の情景が表現された世界がそこに収められている。

今年で第二次世界大戦が終戦してから六十年。若い世代には、「日本が戦争をしたことのない国を挙げよ」という問いに「アメリカ」と答える人がいるという。私自身、日本史で学んだ程度でしか戦争を知らず、身近な人から戦争体験について聞いたことはないが、修学旅行で訪れた広島で被爆者から話を聞いたことがある。テレビや教科書では伝え切れない悲しみや怒りが目の前で語られ、老いてなお真実を未来へと伝えようとする強い思いが、彼らの言葉には込められていた。

俳人高沢虚子の言葉で、「客観写生」という言葉がある。私意や虚偽を入れずに物事を良く観察し、十七文字で表現するという意味だという。

言葉の種類や表現する対象が違っても、過去の歴史を未来へと伝えるための作業は、俳句を作ることと似ていると思う。先人によって残された言葉を探り、未来へとつなげていく。今を生きている私達に課された大きな宿題が残されている。(治)

夏野菜の保存

奥会津の一般的な夏野菜の活かし方です。

今年の夏は天候が不順だったために、農作物は例年よりも収穫量が少なかったと云う。それでも、夏野菜の旺盛な実りの恩恵は、毎日溢れるほどの収穫をもたらしてくれる。

きゅうりは朝に採っても夕方までにはグンと育っている。一家では食べ切れない量の野菜たちは、方々へ送ったり近所で分け合っても、それでも食べきれない。そんな豊富な野菜は、余った分ずつぬか床に入れておく翌日にはおいしい漬物になって食卓を飾る。



それでも食べきれないものは強い塩漬けにして保存し、必要に応じて塩抜きし、粕漬けなどに漬け替えれば味の変化が楽しめる。ナスやトウモロコシ、カボチャ、インゲンなどは茹でて冷凍しておけばお正月まで食べることができる。油と相性が良く、冷凍の違和感がなく食べられるのも魅力である。

日本の食料自給率は30パーセント台にまで至り、やがては20パーセント台にもなるだろうと予測されているが、奥会津のような山村の農業はほとんどが自給自足の小規模なものではあっても、山からの採集食物や田畑の収穫物、それらを保存する技術などによって、食料自給率は100パーセントを優に越えている。今暮らしている土地からの恵みで食を繋ぐことができる豊かさは、これからさらに豊かさの質を深めて行くことだろう。

只見線物語②

奥会津の暮らしを見つめてきた只見線。列車が紡ぐ四季の風景。

若松を出た列車が只見に着いたのは、日も傾きはじめるころでした。

これから列車は、最難所の「六十里越」に挑みます。

只見駅での20数分の停車。

列車も乗客も、峠越えに備えて「ひとやすみ」です。

絵・文 松本 忠

1973年生まれ イラストレーター
東北地方の路線を中心に、全国各地の抒情性溢れる鉄道沿線風景を描いている
著書：詩画集「たとえば空に絵を描くように」(新風舎)



「ひとやすみ」只見線会津只見駅（福島県只見町）



納涼盆踊り大会

奥会津だより
地元記者



柳津町
船木久美子さん

柳津町の夏の風物詩「花火大会」に続いて、8月12日日本町地区の「納涼盆踊り大会」が行われました。この盆踊りは、商工会青年部の主催により毎年開かれています。会場の「中の橋」

先祖の霊を慰めるための踊りだと聞いています。私たちの幼い頃は、ほとんどの集落で開催されておりましたが、今では5ヶ所ほどでしか行われておりません。盆踊りは500年の歴史

周辺には櫓が立てられ、焼きそばやたこ焼き、金魚すくい等の出店が並び、会津磐梯山のお囃子で夜遅くまで踊りました。中でも、6月から練習したという町内の子供たち25名の子供囃子は、大人顔負けの出来映えでした。

先祖の供養はもちろんのこと、若者の出会いの場として、夏休みの子供たちの思い出しとして、帰省客の交流の場として、豊かなふるさとの民俗行事として、盆踊りが永く引継がれていってほしいものです。

盆は盂蘭盆会という仏教行事が原点で、盆踊りは、

先祖の供養はもちろんのこと、若者の出会いの場として、夏休みの子供たちの思い出しとして、帰省客の交流の場として、豊かなふるさとの民俗行事として、盆踊りが永く引継がれていってほしいものです。



奥会津だより地元記者をHPでも掲載しています。今回掲載した記事の他に、三島町の小松さん、金山町の滝沢さんの記事をHPで掲載しています。是非ご覧ください。

歳時記の郷・奥会津ホームページ
<http://www.okuaizu-style.com/tdrsk/>

9月10日 奥会津イベント情報

昭和 奈良晒と原料展

越後縮と同様に、「江戸幕府の御用品」として発展を遂げた「奈良晒」。どちらも東北産のからむし(芋麻)が原料でした。今回の特別企画展では、奈良晒の高い紡織技術とともに、高品質な原料についても紹介しています。

日時 平成18年9月15日(金)～10月29日(日)
午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

場所 大沼郡昭和村 からむし織の里内 からむし工芸博物館

参加料 一般 300円、小中学生150円 (団体割引有り)

問合せ からむし工芸博物館 0241(58)1677

奈良晒と原料展



からむし工芸博物館
平成十八年九月十五日(金)～十月二十九日(日)

柳津 西山温泉ます釣り大会

西山温泉は只見川の支流である滝谷川沿いに開けた温泉郷。その自然豊かな滝谷川でマス釣り大会が行われます。釣りの後は秘湯「西山温泉」にのんびり浸かってみるのはいかがですか。

日時 平成18年9月17日(日) 午前7時開始 (受付は午前6時から)

場所 河沼郡柳津町西山温泉滝谷川

参加料 一般 2,000円、中学生1,500円、小学生 800円
定員 制限無し
問合せ 西山温泉旅館組合 0241(43)2424



10月 金山 アイリッシュコンサート

伝説の笛吹きシヨーン・ライアンと守安功守安雅子の奏でるアイルランド伝統音楽。湖畔の森の音楽会、心に響く音楽をお届けします。

日時 平成18年10月1日(日) 14時開場 15時開演

場所 大沼郡金山町沼沢湖畔 妖精美術館

参加料 前売 大人 2千円、小中学生1千円、当日 2千5百円

問合せ 金山町役場地域振興課商工観光係 0241(54)5327

メール kankou@town.kaneyama.fukushima.jp

方言クイズ

クイズに答えてプレゼントを貰おう!

問題: 次の方言の意味は何でしょう?
「とーみぎ」

ヒント:ゆでたり、焼いたり。

正解者の中から抽選で1名様に、檜枝岐村の「裁ち蕎麦」をプレゼントいたします。

●応募方法:官製ハガキに奥会津だよりの感想、住所、氏名、電話番号を明記の上、答えをお書きください。

●あて先:〒969-7511 福島県大沼郡三島町大字宮下字中乙田979 奥会津書房 宛

●応募締切:9月末日消印有効

※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。
※クイズの答えは次号38号で発表いたします。

◎36号「こしゃえる」の答え:つくる たくさんのご応募ありがとうございました!

晩秋の奥会津にSL、トロッコ列車が走る!

- 運行日 SL会津只見号 10月7日(土)・8日(日)・9日(祝日)
- 運行日 風っこ会津只見号 10月14日(土)・15日(日)
- 1日1往復運行
- 運行区間 会津若松—只見

※ご利用の1ヶ月前の10時から発売開始

- 問合せ 主な駅のみどりの窓口へ

爽りの秋を迎える奥会津を、SL会津只見号、風っこ会津只見号が走ります。ご家族、お友達と一緒に、力強く走る列車に乗って奥会津へおいでください。